

平成 30 年度

摂津市地域包括支援センター業務評価

摂津市

<目的>

摂津市が定めた運営方針等をふまえ、効果的、効率的な業務がなされているかについて、評価を適切に行い、その結果を活かしてより良い運営や活動に向けた取組の充実を図るとともに、不十分な点については改善に向けた取組を行っていくことを目的としています。

<項目>

「摂津市地域包括支援センターの運営の実施に係る方針」および「摂津市地域包括支援センター業務委託仕様書」に基づき、評価項目を設定しています。

<基準>

次の2段階で評価します。

「1」…十分に業務を遂行できた。

「0」…十分には業務を遂行できなかったため、改善が必要である。

<手順>

- ①地域包括支援センターが「摂津市地域包括支援センター評価表」を用いて職員全員で検討し自己評価を行い、市へ提出します。
- ②自己評価に基づくヒアリングを市が行います。
- ③ヒアリングをふまえ、市が「摂津市地域包括支援センター評価表」を用いて評価を行います。
- ④評価結果について、摂津市地域包括支援センター運営協議会が承認を行います。
- ⑤承認された評価結果を、市がホームページ等で公表します。

<期間>

平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）

<時期>

平成31年4月

●「平成30年度摂津市地域包括支援センターの運営の実施に係る方針」に基づくもの●

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|--------------------------|--|---------------|---|--|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 1 地域包括ケアシステムの構築 | <ul style="list-style-type: none"> センターは地域包括ケアシステムの実現に向けた中核的な機関であることを、全職員が理解している。 地域包括支援センターの周知活動に努めている。 [周知活動の具体的な内容] | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 地域包括ミーティングにて地域包括ケアシステムの中核的な機関であることを伝えており、職員全員が理解している。 周知活動については1中校区の地区民協に1回、市内の5か所全てのつどい場に職員が出向き地域包括の周知に努めた。 (つどい場「桜」：2回 5名、ゆびまるこパステル：2回 4名、摂津まるごとプロジェクト：1回 2名、ふれあいの里：2回 5名、つどい場「輪」：2回 5名) [周知活動の具体的な内容：医療機関や薬局等に包括のリーフレットの設置を依頼、つどい場等で地域包括の業務の紹介等を行った。] | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 市民に対し地域包括の周知が十分とは言えない。 <今後の取組> 今まで地域包括リーフレットの設置を依頼している所に加え、高齢者が多く行くスーパー・コンビニ等にも設置を依頼する。 つどい場等の市民が集まる場に出向き、地域包括の活動内容や目的等の周知活動を行う。 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> 全職員が厚生労働省等の動きを積極的に把握することを求めます。 地区民協やつどい場等に出向く以外に、医師会・歯科医師会・薬剤師会にリーフレットの配置を依頼することで、周知に努めていることを確認しました。 老人クラブや自治会等にも出向いて周知に努めることを求めます。 リーフレットについて、より詳しく、分かりやすいものに改良することを求めます。 |
| 2 地域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が集まる場に積極的に足を運び、実態把握を行っている。 地域ごとのニーズについて、センター内で情報共有を図り、検討を行っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> つどい場や施設等に出向いて実態把握を行っている。 総合相談や日々のケース対応で把握した地域ごとのニーズについて地域包括内で情報共有し、検討を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 市内全域を業務の対象にしていることから、きめ細かい地域(中学校区や小学校区等)のニーズが掴み難い。 <今後の取組> 社協や市と協力し、民生委員、自治会、地域の住民や関係機関から地域の課題の聞き取りを行う。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 「第四中学校区の団地には階段が多く、移動が難しい。訪問介護のサービス提供者が少ない」というような実態把握を行っていることを確認しました。 日々の業務を通じて把握した地域ニーズについて、地域包括内の朝ミーティングで話し合い、ケース記録に残していることを確認しました。平成30年度は、特に、地震・大雨・台風にかかるニーズに対応したことを確認しました。 さらに、社協の地域福祉課(CSW、生活支援コーディネーター、ライフサポーター等)と、地域ニーズにかかる情報共有を図っていることを確認しました。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-----------------------|--|---------------|---|--|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 3 地域社会との連携及び専門職との連携構築 | ・地域ケア会議、多職種連携研修、認知症支援プロジェクトチーム会議等の機会を活用し、地域社会や専門職と共通認識を持つことができる雰囲気の醸成に努めている。 | 1 | ・地域ケア会議、多職種連携研修、認知症支援プロジェクトチーム会議等に参加して、地域の特性を把握し、専門職間等と共通認識を持つように努めている。 | <課題> 地域住民と専門職との意識の乖離。 <今後の取組> 会議の回数を重ね、会議の意図を明確化することにより、地域住民と専門職の意識の乖離を減らし、共通認識を持つことが出来る雰囲気の醸成に努める。 | 1 | ・「共通認識を持つように努めている」について、具体的には、認知症にかかる取組の情報を、地域社会や専門職と共有するよう努めていることを確認しました。 |
| 4 介護予防ケアマネジメント | ・介護予防・日常生活支援総合事業における介護予防ケアマネジメントにおいて、本人の持つ能力・興味・関心を引き出し、本人が自立的に取り組めるように努めている。 ・現行相当サービスのみならず、訪問型サービスA、通所型サービスC、一般介護予防サービスの活用を図っている。 [訪問Aの活用件数] [通所Cの活用件数] [高齢者通いの場の活用件数] | 1 | ・自立支援を意識し取り組めるよう努めている。 ・訪問A、通所C、高齢者通いの場の活用対象者には声かけを行っているが、活用に結びつかないことも多い。 [訪問Aの活用件数] 実数：2件／延数：14件 [通所Cの活用件数] 実数：41件／延数：185件 [高齢者通いの場の活用件数] 0件 | <課題> 活用対象者が限定される。 <今後の取組> 訪問A、通所C、高齢者の通いの場への紹介を行い、活用に繋げる。活用に繋がらない高齢者の情報を市と情報共有し課題の解決を検討する。 | 0 | ・骨関節性疾患があり通所型サービスCに向いている人には、通所型サービスCの案内を行っていることを確認しました。 ・一般介護予防サービスの活用として行っている声かけとは、具体的には、訪問や窓口でチラシをお渡しして、案内していることであることを確認しました。 ・訪問Aの活用、高齢者通いの場の活用を十分に行っていくことを求めます。 ・保健センター職員による要支援者のケアプラン作成に対する技術的助言の活用件数が、5月に1件、7月に1件、合計2件のみであり、今後、改めて活用を図ることを求めます。 |
| 5 介護支援専門員に対する支援・指導 | ・介護支援専門員個々人の自主性を尊重し、介護支援専門員個々人の気づきを促している。 ・積極的に介護支援専門員への情報提供を行うとともに、ケアマネジメント支援・指導を行っている。 [ケアマネジメント支援・指導の件数] ・介護支援専門員からの困難事例の相談に対して具体的な助言を行っている。 [困難事例相談の対応件数] | 1 | ・介護支援専門員に対し積極的に声かけを行い、必要時には気づきを促している。 ・介護予防一部委託書類の確認や介護支援専門員からの相談に対し、専門職で連携し対応をしている。他市の介護支援専門員に対し摂津市の情報提供を積極的に行っている。 [ケアマネジメント支援・指導の件数：489件] ・相談内容によって三専門職で対応を行い助言している。必要時には同行訪問や施設訪問を実施。 [困難事例相談の対応件数：26件] | <課題> 介護支援専門員に対し支援・指導が出来るようにする。 <今後の取組> 地域包括にて内部研修を実施し、引き続き困難事例相談対応について、情報提供や助言を行う。同行訪問を継続し、介護支援専門員が問題の解決が出来るように働きかける。 | 1 | ・委託ケースの計画書や評価表にコメントを書き、介護支援専門員に支援・指導を行った件数が489件であることを確認しました。 ・他市の介護支援専門員に、研修や高齢福祉サービスにかかる情報提供を行っていることを確認しました。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-------------|--|---------------|---|---|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 6 地域ケア会議の運営 | <ul style="list-style-type: none"> 個別ケース会議を随時開催し、個別事例の課題を解決し、フォローアップを行っている。 [個別ケース会議を活用した対応件数] 介護支援専門員の資質向上の視点を持ち、各介護支援専門員が年に1回は個別事例を提供するよう働きかけを行っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 個別ケース会議開催後、経過を介護支援専門員や地域からの参加者に対し確認し課題解決に努めている。 [個別ケース会議を活用した対応件数：8件] 平成30年度のケアマネジャー部会において、個別ケース会議のロールプレイを実施し、介護支援専門員へ個別ケース会議のイメージがしやすいように働きかけを行い、同時に個別ケース会議相談票を作成し介護支援専門員へ配布した。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 個別ケース会議の開催件数が少ない。 <今後の取組> 地域包括にえられる介護支援専門員に対し声かけを行い、個別ケース会議の開催件数を増やす。開催後のフォローアップは引き続き行う。介護支援専門員が負担無く、個別ケース会議の事例が提供できるようにケアマネジャー部会等で働きかける。 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議の活性化のために、今後、介護支援専門員からの意見を聴き、話し合いを行うこと、そして、地域ケア会議の趣旨や扱うケースについてケアマネジャー部会で周知を行うことを確認しました。 「個別ケース会議の事例選定については、困難事例を除き、軽度者の事例を検討して、成功事例を積み上げていくことが重要」という認識の共有を求めます。 個別ケース会議の開催件数を増やすために、具体的な仕組みをつくることを求めます。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> さまざまな関係者が意見を述べることができるように努めている。 個別ケースの検討のみならず、その背景に存在する地域課題の把握を行うという視点を持っている。 決定事項を構成員が共有する仕組みを講じている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 関係者が意見を述べる事が出来るように努めている。 地域課題の把握を行う視点を持ち、会議を行っている。 会議の終了時に決定事項の確認等を行い、会議議事録を発送した。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 会議参加者に会議の意義が十分には伝わりにくい。 <今後の取組> 会議で意見が述べやすいよう努め、地域課題の把握を行い、課題の解決が出来るように取り組む。速やかに議事録の発送を行い、決定事項等の情報の共有に努める。全体会議においては各地域の実情に応じて開催回数を検討する。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 各中学校区全体会議において、関係者が意見を述べる事が出来るよう、座長との事前打合せを行っていることを確認しました。 今後、各中学校区全体会議で出た地域の課題を、一覧表にとりまとめ、今後の方向性を共有できるようにします。 各中学校区全体会議が年に1回では少なすぎるというご意見をいただいております。開催頻度について、再考を求めます。 |
| 7 市との連携 | <ul style="list-style-type: none"> 市への報告、連絡、相談を適宜行い、情報の共有を図っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 月1回の地域包括連絡会に出席している。必要時には適宜、情報の共有を図っている。 | <ul style="list-style-type: none"> <今後の取組> 引き続き地域包括連絡会に出席し、必要時には適宜、情報共有を図る。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 場所が近いこともあり、直接会ってあるいは電話によって、市への報告・連絡・相談を適宜行っています。 |
| 8 公正・中立性の確保 | <ul style="list-style-type: none"> センターは公正・中立でなければならないことを全職員が理解している。 サービスが特定の事業者に偏らないよう配慮している。 [訪問介護および通所介護のサービス事業者占有率が50%未満] センター職員以外が事務所内に入らないようにしている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 公正・中立を全職員が理解している。 特定のサービス事業所に偏らないように配慮している。 センター内に職員以外が入らないようにしている。 [最も高いサービス事業者占有率] 訪問型サービス 15.58% 予防訪問リハビリ 28.57% 通所型サービス 11.96% 予防通所リハビリ 21.27% | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 要支援認定者が利用できる訪問介護、通所介護サービス事業所が少なくなっている。 <今後の取組> 市との情報共有を行う。訪問A、通所C、通いの場への紹介を行い、活用に繋げる。活用が困難な高齢者の情報を市と共有し課題の解決を検討する。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 公正・中立でなければならないことを、事業計画策定時の地域包括ミーティングで話し、全職員が理解していることを確認しました。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|------------|---------------------|---------------|--|--|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 9 緊急時の態勢整備 | ・夜間・休日の連絡態勢を整備している。 | 1 | ・地域包括のリーフレット及び社協ホームページに、夜間、休日は市役所に連絡を行っていただくよう記載している。緊急時の連絡網も作成している。 | <今後の取組> 社協の体制上、可能な対応を継続する。今後のことは市との協議が必要。 | 1 | ・地域包括リーフレット及び社協ホームページに夜間・休日の連絡先として市を掲載し、市からの連絡を①当番者②センター長③係長で受ける体制をとっています。 ・今後、地域包括が直接連絡を受ける体制を整備することについての検討を求めます。 |

● 「平成30年度摂津市地域包括支援センター業務委託仕様書」に基づくもの ●

一般介護予防事業

| | | | | | | |
|---------------------------|--|---|--|---|---|--|
| 1) 介護予防講座の普及・啓発 | ・「はつらつ元気でまっせ講座」や「高齢者通いの場」等の普及・啓発を図っている。 | 1 | ・高齢者のサロン「市営三島のサロン」に1回参加し、普及・啓発を行った。 | <課題> 普及・周知活動が少ない。 <今後の取組> サロン等に積極的に参加し、普及・啓発を行う。 | 0 | ・平成30年度は、1回、サロンで普及・啓発を行ったことを確認しました。 ・今後は、計画を立てたうえで、各小学校区のサロンや各地区の民生児童委員協議会で普及・啓発を行うことを求めます。 |
| 2) 介護予防講座自主グループ化への支援 | ・「はつらつ元気でまっせ講座」に積極的に参画することで受講者への働きかけを行い、自主グループ化への支援を行っている。 [自主グループ化支援の件数] | 1 | ・講座の6回目に活動の大切さ等を伝え、講座終了の1か月後に自主グループの継続が出来ているかのフォローを行っている。 [自主グループ化支援の件数：いきいき健康づくりグループに加入していないグループも含め6件（健康づくりグループへ加入2件、未加入4件）] | <課題> 講座の6回目と講座終了の1か月後にフォローに出向いているが、出向き時期が適切なのかを検討。 <今後の取組> 関係機関との連携を図り、適切なフォローの時期を考える。自主グループ活動が継続できるように支援する。 | 0 | ・継続した活動を積極的に支援するために、回数だけでなく、内容についても検討することを求めます。 |
| 3) 老人クラブや民生児童委員等への支援 | ・老人クラブや民生児童委員等、地域で活動する組織に働きかけ、介護予防活動を活発に行えるよう、支援を行っている。 [老人クラブ支援の件数] [民生児童委員支援の件数] | 0 | ・平成30年度は行えていない。 | <課題> 老人クラブ支援、民生児童委員等への介護予防活動の支援が行えていない。 <今後の取組> 老人クラブや民生委員等の組織に介護予防の情報を伝える。 | 0 | ・老人クラブや民生委員に働きかけ、支援を行う内容は、「はつらつ元気でまっせ講座」の案内を行っていくことであると確認しました。 |
| 4) 「せつついきいき健康づくりグループ」への支援 | ・「せつついきいき健康づくりグループ」への支援を通じた地域での介護予防の場づくりとその展開を行っている。 | 1 | ・年に2回の交流会等を継続し、健康づくりグループ活動が継続できるように事務局を行う。 | <課題> 活動を解散・休止する自主グループがある。 <今後の取組> 自主グループの活動が継続できるように支援する。 | 1 | ・「せつついきいき健康づくりグループ」の皆さんが自分たちで活動を行っていくことができるよう、その意識の醸成を図っていくことを求めます。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|------|-------|---------------|------|----------|------|-------|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |

包括的支援事業

①総合相談支援業務

| | | | | | | |
|----------------------|--|---|---|--|---|--|
| 1) 様々な関係者とのネットワークの構築 | ・ライフサポーター、民生児童委員、ボランティア、介護保険事業者、医療関係者とのネットワーク構築を行っている。 | 1 | ・社協内は元より民生児童委員、ボランティア、介護保険事業者、医療関係者等とのネットワーク構築を意識している。 | <p><課題> 担当者の交替等により所属担当者の把握が十分に出来ていない。</p> <p><今後の取組> 日頃より顔の見える関係づくりを意識しネットワーク構築を密に行っていく。</p> | 1 | ・社協の地域福祉課（CSW、生活支援コーディネーター、ライフサポーター等）との会議に参加するとともに、関係機関との定例会・会議・研修会に参加することで、ネットワーク構築を行っていることを確認しました。 |
| 2) 高齢者世帯の実態把握 | ・孤立している高齢者や重層的な課題を抱えている高齢者等、潜在する高齢者の把握を行っている。 [問題が潜在する高齢者の把握件数] | 1 | ・相談対応において把握するケースの対応を行っている。 [問題が潜在する高齢者の把握件数：84件] 対応した一例：病院のMSWより相談。入院歴あり。ひとり暮らしで親族とは疎遠。心臓疾患があり、通院日に受診せず、病状悪化の恐れがあるとの連絡。独居登録無し。本人宅に主任ケアマネが訪問し受診を促す。服薬管理が出来ておらず、自宅もカビだらけであった。その後、病院と連携し、介護保険の申請、訪問看護、ヘルパーの利用、通院は往診医に変更する。現在は独居登録を行い、ライフサポーターも訪問。介護サービスの利用と往診医と連携、配食も利用しながら在宅生活を送っている。 | <p><課題> 問題が潜在する高齢者の増加で継続的に把握することが難しい。</p> <p><今後の取組> 市、関係機関と連携し定期的に確認する。</p> | 1 | ・孤立している高齢者や重層的な課題を抱えている高齢者への対応として、困難事例84件の対応を行ったことを確認しました。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-----------------|--|---------------|---|---|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 3) 初期段階の相談対応 | <ul style="list-style-type: none"> 相談に速やかに対応し、信頼関係の構築に努めている。 いつでも緊急性の判断を行えるよう、チェックリスト等の活用を行うとともに、専門性をふまえた対応を行っている。 緊急性が高いと判断した際に、速やかに訪問するなど適切な対応ができています。 <p>[緊急性が高いと判断し、訪問を行った件数]</p> | 1 | <ul style="list-style-type: none"> チェックリストは無いが、相談に速やかに対応をしている。 [緊急性が高いと判断し、訪問を行った件数：4件（平成31年1月～平成31年3月）] 娘からライフサポーターへ相談。前日に交通事故を起こし、車は大破。本人の怪我は軽度であったが、名前も住所も言えず帰宅後、連絡がつかず。ライフサポーターと地域包括職員で訪問→入院されていた。 配食の担当者より本人と連絡つかず。地域包括から本人に連絡すると「体調不良」との訴えあり。急遽、訪問する。 妻より本日、夫が退院したが2階にあるトイレに上がることが出来ないとの連絡。急遽、訪問する。 妻より急に動けなくなったとの相談。急遽、訪問する。 | <p><課題> 適切な判断が出来るよう、緊急性を判断するチェックリストの作成。</p> <p><今後の取組> チェックリストの活用。緊急時には地域包括内で相談し、必要時は関係機関との連携を図り対応する。</p> | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 緊急ミーティングを行い、緊急訪問を行ったことを確認しました。 今後は、1年間の、緊急性が高く特筆すべき相談対応についての記載を求めます。 |
| 4) 継続的・専門的な相談支援 | <ul style="list-style-type: none"> 策定した支援方針を記録に残し、それに基づいた支援を行っている。 個別の支援に関する悩みや困っていることについて、常に3専門職がチームとして話し合う機会を設けている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ミーティングや専門職チームにおいて支援方針を検討し、支援経過に記録している。 | <p><課題> 相談が増加しており、継続的な対応が追いついていない。</p> <p><今後の取組> 市、関係機関と連携し定期的に確認する仕組みが必要。</p> | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 悩みや困っていることについて、朝ミーティングを活用して、3専門職がチームとして話し合う機会を設けていることを確認しました。 |

| ②権利擁護業務 | | | | | | |
|--------------|---|---|---|--|---|---|
| 1) 高齢者虐待への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 全職員が高齢者虐待防止法を理解しており、説明できる。 チームで役割分担を行っている。 本人だけでなく養護者への支援も行っている。 高齢者虐待防止の早期発見につながるための啓発活動を市と連携して行っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 地域包括にて内部研修を実施。レジュメを用いて高齢者虐待防止法をはじめ虐待の種類や具体例などの講義をしている。 虐待ケースについては社会福祉士チームで対応。主担当を決めているが、チーム内で情報共有しており担当不在時も対応出来るようになっている。また、養護者に対する支援も行っている。 虐待防止のチェックリストを介護支援専門員に配布し、早期発見に繋がる啓発を行っている。 | <p><課題> 高齢者虐待の捉え方に個々で違いがあるため、通報者（主に介護支援専門員）が偏る傾向がある。</p> <p><今後の取組> 引き続き地域包括内での講義を定期的実施するとともに、介護支援専門員対象に早期発見の意識を高める啓発活動を行っていく。</p> | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待防止法について、地域包括内研修を行っていることを確認しました。 社会福祉士のチームで情報共有を積極的に行うことで、さらなる支援方針の検討やスーパーバイズ機能を持つことができると思います。 地域包括と市が作成したチェックリストについて、日頃介護支援専門員から寄せられる相談や意見をもとに、今後見直していくことで、より一層、チェックリストの活用を図っていくことを考えています。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|----------------|--|---------------|---|---|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 2) 成年後見制度の活用促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・全職員が成年後見制度を理解しており、説明できる。 ・相談に適切に対応し、申立の支援を行っている。 <p>[成年後見申立の支援件数]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者や関係機関に成年後見制度に関する啓発活動を市と連携して行っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括にて内部研修を実施。レジュメを用いて成年後見類型や具体例、申立の流れなどの講義をしている。 ・市民や支援者からの申立の相談に対応し、申立支援も行っている。 <p>[成年後見申立の支援件数：33件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座や研修などの啓発活動を市と連携して行っている。 | <p><課題></p> <p>成年後見制度の理解において、介護支援専門員や支援者の間で違いがある。</p> <p><今後の取組></p> <p>引き続き内部研修を実施し、後見の申立支援を行う。啓発活動についても市との連携を継続し、介護支援専門員対象に講義を実施する。</p> | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度について、地域包括内研修を行っていることを確認しました。 ・「支援件数」について、相談を受け、書類作成等の支援を行った件数であることを確認しました。 ・成年後見制度に関する出前講座の依頼を毎年一定数いただいております。今後も市と地域包括で講師を担い、成年後見制度にかかる周知を図ってまいります。また、受講者の関心が高いものの市の関与が少ない任意後見制度については、地域包括が相談対応の積み上げと共有を通じて周知を図っていくことを考えています。 |
| 3) 消費者被害の防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害の動向を把握している。 ・消費生活相談ルームや警察等との連携を行っている。 ・地域の高齢者や関係機関に消費者被害に関する啓発活動を市と連携して行っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア全体会議にて各中学校区で消費者被害について説明。各関係機関との連携も常に行っている。 | <p><課題></p> <p>刻々と起こっている消費者被害や特殊詐欺の状況を把握し、伝えることが必要だが追いついていない。</p> <p><今後の取組></p> <p>各機関との連携を図り、特にライフサポーターとは情報共有し、被害の防止、早期発見対応に努める。</p> | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・普段の業務において消費生活相談ルームや警察との連携を図ることができており、各中学校区での地域ケア会議において消費者被害の防止にかかる啓発を図ることができたことを確認しました。 |
| 4) 措置の支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・市が行う老人福祉施設等への措置の支援として、訪問調査による事実確認等を適宜行っている。 | — | <ul style="list-style-type: none"> ・市から老人福祉施設等への措置の支援の要請は今年度は無かった。 | <p><今後の取組></p> <p>本人、関係者への聞き取りなど事実確認の訪問調査を市と協力して行う。</p> | — | <ul style="list-style-type: none"> ・措置は市が実施するものですが、措置に至るまでの経過や措置実施後の対応について、今後、市と地域包括とで連携して対応していきたいと考えています。 |
| 5) 困難事例への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・困難事例の情報共有を行い、対応終了後に事例のふり返しを行っている。 ・解決にむけて関係機関と連携している。また、その関係性を継続するための取組を行っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・関係者で集まり情報共有を行い、終了後にはふり返しを行っている。 ・継続的に関係者間で連絡を取り合い、現状把握を行っている。 | <p><課題></p> <p>関係者全員での再アセスメントの実施が難しい。</p> <p><今後の取組></p> <p>状況の推移に応じた再アセスメントは必要であり、実施後共通認識としていく。</p> | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関や親族と継続的に電話等で連絡を取り合っていることを確認しました。 ・困難事例の対応において、地域包括を中心とした関係機関のネットワークは、重要です。今後、さらに関係機関との情報共有やふり返しを深めることを求めます。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-----------|---|---------------|---|---|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 6) 研修会の開催 | ・介護保険事業所職員や市民等を対象とする、高齢者権利擁護にかかる研修会を開催している。 [研修会開催の回数] | 1 | ・介護保険事業者、市民向けに成年後見制度・任意後見制度についての研修会を開催した[1回]。 ・訪問介護事業所職員に対し高齢者虐待研修会を実施した[1回]。 ・市開催の、施設管理者および初任者を対象とした高齢者権利擁護研修会に協力した[2回]。 | <課題> 研修を受講後も知識として定着することは難しい。 <今後の取組> 繰り返し研修や勉強会を実施する。また今年度は一昨年と同様に権利擁護研修を法定外研修で実施する。 | 1 | ・市と連携し、介護保険事業所職員および市民を対象とする研修会を開催しています。 |

| ③包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 | | | | | | |
|----------------------------|--|---|---|---|---|---|
| 1) 包括的・継続的なケア体制の構築 | ・医療機関や介護保険事業所との連携体制を得られやすいような働きかけを行っている。 ・様々な社会資源を活用できるよう地域の連携・協力体制の整備を図っている。 ・介護保険事業所職員や市民を対象とする研修会について、計画書を市へ提出し、開催している。 [研修会開催の回数] | 1 | ・医療と介護の連携シートの活用や医療機関、介護保険事業所等への連携を図っている。 ・社会資源が活用できるように常に新しい情報収集を意識し職員間で共有を図っている。介護保険事業所等にも情報提供を行っている。 ・地域包括主催の研修会、勉強会については予め市に計画書を提出している。 [研修会開催の回数：2回] | <課題> 地域の細かい社会資源の把握が十分ではない。 <今後の取組> 生活支援コーディネーター等と連携し、新たな社会資源や地域の連携を密にする。 | 1 | ・「常に新しい情報収集を意識し職員間で共有を図っている」について、具体的には、福祉サービスにかかる情報であることを確認しました。 |
| 2) 地域における介護支援専門員のネットワークの活用 | ・主任介護支援専門員間の連携を図るとともに、ケアマネジャー部会の支援を行っている。 | 1 | ・年3回のケアマネジャー部会の支援を行った。 | <課題> ・主任介護支援専門員の連携のための「主任介護支援専門員連絡会」を開催することが求められている。 <今後の取組> 引き続きケアマネ部会の支援を行う。「主任介護支援専門員連絡会」を開催する。 | 0 | ・「主任介護支援専門員の連絡会」について、計画を立てたうえで、開催を実現することを求めます。 ・「ケアマネジャー部会の支援」について、具体的には、日々介護支援専門員一から受ける相談について、ケアマネジャー部会との打合せでお伝えしていることを確認しました。 ・介護支援専門員を対象とする「地域包括支援センター勉強会」を行うにあたり、事前に介護支援専門員へのリサーチを行っていることを確認しました。 |

| | | | | | | |
|-------------|-----------------------|---|---|---|---|---|
| ④地域ケア会議推進業務 | 上記の「6. 地域ケア会議の運営」に記載。 | — | — | — | — | — |
|-------------|-----------------------|---|---|---|---|---|

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|----------------|--|---------------|---|---|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| ⑤認知症総合支援業務 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症支援プロジェクトチームに参画し、センターの役割を發揮している。 認知症サポーター養成に協力している。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症支援プロジェクトチームに参画し、地域包括の役割を發揮している。 認知症支援プロジェクトチームで、認知症の相談等、摂津市の現状を伝えた。 認知症サポーター養成講座に協力している。 [講師派遣：5回] | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 認知症予防の働きかけが十分でない。 <今後の取組> 認知症サポーター養成講座の中で認知症予防の大切さを周知していく。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 総合相談から摂津市の現状を伝えることが、認知症支援プロジェクトチームにおける地域包括の役割であることを確認しました。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 総合相談において認知症の相談を受けている。 [認知症相談の件数] 訪問対象者に該当する場合に、認知症初期集中支援チームに情報を提供している。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 総合相談において認知症の相談対応を行っている。 相談対象者の中で必要時は認知症初期集中支援チームに情報を提供している。 [認知症相談件数：226件] | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 認知症状があっても介護サービスに繋がらない相談が増えている。 <今後の取組> 医療・地域等との連携強化し、地域ケア会議等も含め見守り体制づくりを強化する。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターから認知症初期集中支援チームへ1件の情報提供がありました。今後も必要時にチームと情報共有し、連動した支援を行うことを求めます。また、引き続き、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりにむけて、中核機関の役割を担うことを求めます。 |
| ⑥在宅医療・介護連携推進業務 | <ul style="list-style-type: none"> 「在宅医療・介護連携推進事業」企画会議に参画し、センターの役割を發揮している。 在宅医療・介護連携推進のための多職種連携研修会に参画している。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護連携推進事業の企画会議に参加し、役割を發揮している。 在宅医療・介護連携推進のための多職種連携研修会に参画している。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 関係機関との連携が十分ではない。 <今後の取組> 連携シートの積極的な活用。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 市内全域の在宅医療・介護について、最も把握できており、それをもって「在宅医療・介護連携推進事業」企画会議に参画することが、地域包括の役割であることを確認しました。 |
| ⑦生活支援体制整備業務 | <ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターとの連携を図っている。 協議体に参画している。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 必要時に社協地域福祉課の担当、生活支援コーディネーターとの連携を図っている。 協議体に参画している。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 地域福祉課、生活支援コーディネーターとの定期的な連携の場がない。 <今後の取組> 地域福祉課、生活支援コーディネーターと連携し、地域の社会資源等の把握をし、紹介する。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者のニーズに合う社会資源があるか等について生活支援コーディネーターと話し合うことによって、連携を図っていることを確認しました。 |

28
/29

22
/29